

第4次中期方針

I. 基調

1 2030年ビジョンの実現をめざします

第4次中期方針は2030年ビジョン

『SDGsの6つの目標に沿ってありたい姿の実現を』の足掛かりとします。

(1)SDGsの6つの目標の達成をめざします

- 持続可能な食の循環を発展させる
- 安心してらせる地域社会づくり
- 多様性を認め理解し合える社会づくり
- 大切な地球を未来の子どもたちに引き継ぐ
- 飢餓・貧困をなくし、子どもたちを支援する
- 核廃絶と平和の実現、次世代への継承

(2)2020年ビジョンから引き継ぐ課題について

- 1 ひろがるコープ(愛知県下で「世帯加入2割」をめざします)
 - 毎年3万人の新規加入と利用者純増1.5万人をめざします。
 - 地域のみなさんの願いや想いに応えられる生協になります。
 - 組合員のいろいろな参加(モニター参加、利用を通じて声の参加など)を広げます。
 - 組合員活動は身近な地域で活動する登録者を増やします。
- 2 つながるコープ(さまざまなつながりや連携を強めます)
 - 組合員がより利用しやすい事業として改善・改革していきます。
 - 総合的にお役立ちできる事業と活動をメーカー・生産者他と連携しながら広げていきます。
 - 組合員・生活者の願いを実現するくらしの運動や活動を広げていきます。
 - これらの取り組みを「64の生協の事業所」を通じ広げ、つなげていきます。
- 3 笑顔あるくらしへの貢献(「コープあいちがあってよかった」と言われるように)
 - コープあいちの総合力とさまざまな事業・活動を通じて組合員の声を生かします。
 - 働いていてよかったと実感できる元気な職員組織、健全な経営をめざします。



2 コロナ後に向けて生協の役割を明確にし、くらしへのお役立ちを広げていきます

パートナーシップで安心してらせる地域づくりをすすめます

- 1 生協の根源的な価値や役割をわかりやすくお知らせし、広げ、地域社会づくりの役割を担います。
- 2 「協同すること」を大切に「たすけあい(おたがいさま)」の取り組みを広げます。
パートナーシップで安心してらせる地域づくりをすすめます。

3 組合員、役員、職員の全員参加で2030年を見据え改革し、チャレンジし、コープあいちのファンを増やします

- 事業と活動のしくみづくり・構造改革・デジタル化を推進します。
 - 組合員・ふくし※・地域の視点を大切にします。
 - 組合員と職員と共に考え、行動し、新しいことにも果敢にチャレンジします。
 - コープあいちのファンを増やし笑顔あるくらしへ貢献します。
- ※ひらがなの「ふくし」は福祉事業に限らず、くらしを支え合い「ふだんのくらしをしあわせに」する意図を込めて使っています。

Ⅱ. 重点課題4つの柱

柱1
お役立ち

～コープあいちのさまざまな事業を通し、
みんなの想いをつなげます～

1 食を中心に、生涯を通じて暮らしへのお役立ちができる
事業をめざします

- 食を中心に、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、生産と消費の笑顔がつながる事業・活動をすすめます。
- 「食の安全」や「食育・健康」、身近な「環境や食糧問題」について、学び合う場や商品を通した取り組みを広げていきます。その学びを広く伝え合うことを大切にしていきます。
- 経常剰余率目標は1.5%以上をめざします。

2 生協のしくみを生かし、行政や地域の諸団体のみなさんとも
連携して、安心してらせるまちづくりに貢献します

- 市町村ごとの加入率目標や重点地域を決め、生協を幅広くお知らせします。愛知県内全域で加入率2割の生協になります。
- 宅配はコロナ禍、コロナ後の時代を見通しながら、多様な世代(子育て層・共働き層・シニア層)の願いに応える事業に変えていきます。宅配事業の体験価値(満足度・喜び等の心理的な価値)を高められるように取り組めます。そのために、DX(デジタル化による抜本改革)とUX(利用を通じて得る体験)向上を具体化します。
- 店舗は地域のくらしの拠点として3つの基準(閉店・出店改装・修繕)を基調に、第4次中期方針の期間(23年まで)に全店直接剰余の黒字化をめざします。
- 福祉は高齢化に伴う役割を明確にし、エリアで頼りにされる福祉事業をめざし、安定した経営と幅広い人材育成をすすめます。
- 地域のさまざまな要望や課題に事業間連携とパートナーシップで対応します。
- 各事業所は、大規模自然災害時の継続と環境・省エネルギー対策ができるように改修します。

柱2
SDGs

～組合員・地域のみなさんと一人ひとりが
できることから始めましょう～

1 地域での活動を積み重ね、世界の人々と共に、
格差や貧困・飢餓のない社会の実現に貢献します

- 平和や再生可能エネルギーの推進、食育、復興支援、防災など幅広いくらしの願いや要望がかなえられる社会づくりに貢献します。
- 格差や貧困のない社会をめざし、ユニセフやアイキャンの国際協力活動をすすめます。
- 地域の見守り活動、子育て、おたがいさまの活動などは、組合員や県内協同組合、地域の諸団体や行政と一緒に広がっていきます。

2

ダイバーシティなど、たがいに認め合いながら一人ひとりが大切にされる社会をつくります

- 多様な誰もが共に働ける職場環境をつくっていきます。ダイバーシティ、男女共同参画、ワークライフバランスなど目標をもって取り組んでいきます。
- 多様な方々が参加・参画できる組合員活動を広げ、安心してらせる地域社会をめざします。

3

くらしの中でエシカル消費をすすめます

- 「あいちを食べよう日本の食をたいせつに!大運動」のさらなる広がりを通じて、産地とのコミュニケーションを深め、地元の農業を支援し普及をすすめます。
- 飼料米やエコフィード(食品残さなどを利用して製造された飼料)など資源循環の推進を通じて食糧自給率の向上と県内の生産の拠点を守る取り組みをすすめます。
- コープ商品の普及を通し、地域、環境、社会、人々の視点でのエシカル消費を広げ、みんなの笑顔につながるお買い物を推進します。

4

脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて、くらしのあり方を見直し、事業を変革します

- コープあいちの環境政策に沿って具体的な行動を確実にすすめます。
- 2030年ビジョンでめざす環境対応として、CO₂を40%削減する取り組みを推進します。
- 商品案内など紙資源の削減、食品ロス削減に向けた運動をすすめます。

5

被爆・戦争体験と平和への想いを次世代に継承し、世界の人々への発信と対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現をめざします

- ピースアクションや平和の活動を通じて戦争体験を伝え、平和な世界、戦争のない世界を未来の子どもたちにつなぐ取り組みをすすめます。
- 幅広い世代や誰でも参加できる活動を広げていきます。被爆者の語り継ぐ活動を見える化し継承していくことと新たな平和活動の担い手づくりを広げていきます。

柱3

チャレンジ

～社会の変化に機敏に対応し、
のりこえていきます～

1

食の安全・安心をリードし、いのちとくらしにかかわるさまざまな分野で、社会的水準を高めるフロントランナーをめざします

- 地域の生産の拠点を守り、環境や社会に貢献できる商品を広げます。
- 産消提携を推進し、さまざまな声や要望に対応できる産物を育みます。

2

一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、社会の変化に対応し、災害時にも助け合い支え合える地域社会をつくります

- BCP(事業継続計画)は大規模自然災害や感染症、人的被害など幅広いリスクに対応できるように実行力を強めます。組合員や地域のみなさん、全国の生協と連携していきます。
- 地域の一員としてブロックごとの組合員の話し合いの場(ブロック内の情報共有、問題解決など)の検討をすすめ、組合員活動を多彩に広げていきます。

3

技術の進化を積極的に取り入れながら情報発信の充実や、事業革新にチャレンジします

- コープ宅配のしくみのリノベーションをすすめ、年度ごとに課題を明確にしてすすめます。
- 利用しやすいe-フレンズの基盤の整備を行います。
- 持続可能な事業であるために収益構造の強化を3生協と東海コープと一緒にすすめます。

柱4

みんなの力

参加・共感・信頼

人の力

1

組合員が主人公。おいしさ・たのしさ・うれしさ、を感じられる生協

- 新しい「組織運営方針」に基づき、地域組織・ブロック運営、総代選出、理事選出など、地域で幅広い世代が参画できる活動の広がりをみんなで知恵を出し合い推進していきます。
- 各ブロックや全体で取り組んでいる活動を見える化し、みんなで協同し推進していきます。

2

職員が誇りとやりがいを力に働き続けられる職場をつくります

- “できていること(人)”から学び合い・教え合いができる職場をつくります。
事業ごとに継続的に組合員満足度調査を実施し、事業運営・職員育成に生かします。
- 生協の安全運転や接遇など仕事の基礎教育、協同組合や生協商品についての学習、専門分野の教育、マネジメント研修を整備し実施します。
- 職員の高齢化、定年延長に向けての仕事づくりや女性幹部職員の育成を推進します。

連帯の力

1

みんながかかわることで実現する力

- JAはじめ県内の協同組合のみなさん、地域の諸団体、社会福祉協議会や行政とも日常的な情報交流などの連携を通じて、安心してらせるまちづくりに貢献します。
- 地域の見守り活動や子育て、「くらしたすけあいの会」など地域づくりの取り組みを支援します。
- 日生協、共済連、研究センターや労働者協同組合(ワーカーズ)のみなさんとの連携で、日々協力し合える関係づくり(相互関係)を深め、地域づくりを推進します。

2

生産者・メーカーとの協力・連携を大切にして
パートナーシップを高め、よりよい暮らしを実現します

- 東海の3生協を柱に全国の生協と連帯し、事業基盤の強化をはかります。
- さまざまな団体とのパートナーシップにより、暮らしの総合的な役割を担えるようになります。

願いをカタチにする力

1

「こうだったらいいな!」がカタチになる生協

- 組合員の声を生かし、組合員の参加を広げるためにモニターの拡充やSNSなどの環境整備を行います。
- 利用を通じた声を多く集め、利用しやすいしくみの改善や商品の品揃えなどに生かします。

2

かかわりたい、参加したいと思える生協にします

- コープあいちの事業・活動をさまざまな手段を使い、内外に発信し続けます。
- 地域活動は行政や他団体と一緒にブロック運営の中ですすめていきます。
身近なところで活動し、ブロックごとに地域について考え合う場をつくります。
- 食に関わる社会情勢に応じた学習会や情報を提供します。
- 「まなびガイドブック」の活用を推進し、利用につながる取り組みを広げます。
オンラインで学べるコンテンツを生産者・メーカーと一緒に広げていきます。
- 広報についてはWebサイトをリニューアルし、Webを活用し双方向のコミュニケーションを強化します。コープあいちとして積極的に意見や提言を発信していきます。
- 組合員の参加を広げるためSNSの活用、リアルタイムの情報や商品情報の発信やアンケートなど、幅広い世代にアプローチを広げます。

2023年度目標数値

	2020年度実績	2023年度到達すべき水準
組合員数	52万人	60万人
総事業高	670億円	642億円
宅配	515億円	490億円
店舗	101億円	100億円/置き換え1店舗、改装1店舗
モーニングコープ	6.2億円	6億円/維持
夕食宅配	6.7億円	7.2億円
福祉	23億円	25億円
経常剰余金	13.6億円	9.6億円/経常剰余率1.5%
出資金	96億円	99億円/毎年1億円増
法定準備金	41億円	45.5億円/毎年1.5億円積立
任意積立金	33億円	36億円/毎年1億円積立

	2020年度実績	2023年度到達すべき(最低限の)水準
災害協定	52行政区	54/54行政区(全行政区)
見守り協定など	35行政区	48/54行政区(9割)